

インフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響  
-学外における協働的な側面に着目して-

The Influence of Informal Learning on International Students' Formal Learning  
-Focusing on the Collaborative Aspect of Off-campus Learning

学籍番号：20MD0139

氏名：松田 聖生

研究の目的と方法

世界規模でのグローバル化促進の流れに呼応して日本国内でも幾つかの取り組みが実施され、なかでも留学生 30 万人計画により日本国内における外国人留学生の数は増加している。一方で、外国人留学生がさまざまな問題を抱えているのも事実である。いくつかの先行研究は、学習面、精神面、日常生活などさまざまな点で留学生の困難を指摘している。

上記で述べたように日本国内の留学生は学習を続けるなかでさまざまな困難を抱えているが、在籍している教育機関を卒業（修了）後に日本での将来を見据えている場合、留学生としての学びに継続的に取り組む必要がある。Matsuda (2020a) は留学生の日本語獲得能力に必要な学習環境の構成要素の 1 つに、現地の人々との授業外での関わり的重要性を述べている。本節で列挙された先行研究を踏まえると、留学生と学生を含めた現地の人々が授業外で関わりを持つことは、留学生にとって日本語能力獲得促進だけでなく、留学生が日本国内で生活をするうえで必要な知識、考え方、精神面などを留学生が身につける手助けをする役割を担うことが考えられる。その結果、留学生が日本国内でフィールドワークを実施するといった学習実践の機会が多く見られるようになってきており、留学生が日本国内で実施するインフォーマル学習は、留学生が日本で生活していくうえで何かしらの影響を及ぼしていることが考えられる。

しかし、現段階では留学生によるインフォーマル学習が留学生へのフォーマル学習に及ぼす具体的な影響が明確となっていない。それにも関わらず、留学生による日本国内でのインフォーマル学習は増加傾向にある。このことから、留学生にとってインフォーマル学習は重要なようであることが示唆されているが、留学生のフォーマル学習は留学生にとっては最も重要な要素であることは言うまでもないが、肝心の留学生によるインフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響が明確になっていない。

筆者は、本研究で留学生がインフォーマル活動に従事することが、留学生のフォーマル学習にどのような影響を及ぼすのかを把握し、それらの影響に関わる要素を明らかにすることを本研究の目的とした。また、留学生と日本人によるインフォーマル学習に関しては、協働的な側面に着目しながら分析をした。本研究目的を設定した理由として、本研究で留学生のインフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響を分析することで、以後実践されていく可能性がある留学生によるインフォーマル学習が充実し、留学生のフォーマ

ル学習に対して好影響を及ぼす、または負の影響を正のものに変えていく要因を把握できると思われたためである。

上記の研究目的を達成するために、本研究ではインフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響を把握するため、留学生のインフォーマル学習に焦点を当てた研究に加えて、現留学生、元留学生に対するアンケート調査、留学生と関係者に対してのインタビュー調査、第三者としての活動観察と関係者へのインタビューからインフォーマル学習の実態調査を実施した。アンケート調査による調査期間は2021年4月5日～11月30日、インタビュー調査の調査期間は2021年5月26日～12月1日である。アンケート調査期間とインタビュー調査期間を長めに設定した理由は、調査対象の母集団である留学生の偏りを抑えることと、より多くのデータを収集することを意識したためである。

第1章	序論	1
第1節	研究の背景	1
第2節	留学生が日本国内で置かれている現状	2
第1項	日本語学校	2
第2項	高等教育機関	2
第3項	留学生によるアルバイト	3
第3節	問題の所在	4
第4節	研究の目的	5
第5節	調査方法	5
第6節	用語の定義	6
第7節	論文の構成	8
第2章	先行研究調査	9
第1節	留学生の学習に関する知見	9
第2節	留学生によるインフォーマル学習に関する知見	9
第3節	留学生支援活動	11
第4節	先行研究調査のまとめ	12
第3章	インフォーマル学習の影響	13
第1節	調査結果の分類方法	13
第2節	アンケート調査	14~18
第3節	インタビュー調査結果	22~29
第4章	インフォーマル学習の実態調査	29
第1節	高齢者養護施設での異文化交流	29
第1項	実施までの経緯	29
第2項	高齢者との異文化交流活動	30
第3項	高齢者との協働的なインフォーマル学習の振り返り	30
第4項	大府市神田公民館での協働的なインフォーマル学習について	31
第2節	東海市地域大門卓会議	31
第3節	小学校での国際交流	33
第5章	インフォーマル学習における重要要素の考察	35
第1節	インフォーマル学習における日本人との関わり	35
第2節	インフォーマル学習における日本人との協働	36
第3節	インフォーマル学習の実施期間	37
第6章	結論と課題	39~41
	文献, URL, 資料, 図表	41~50
	謝辞	51

本研究は、留学生によるインフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響を質的に調査・分析した研究である。本研究では、先行研究調査、日本国内に滞在する留学生、日本国内に滞在していた元留学生に対してアンケート調査、インタビュー調査を実施し、インフォーマル学習の実態調査を筆者の活動観察と関係者へのインタビュー調査から実施した。結論として、留学生のインフォーマル学習がフォーマル学習に及ぼす影響を効果的なものとするためには、積極性、協働性、継続性の3つの要素が重要となることを指摘した。

第1章では、本研究を実施するに至った経緯を説明し、本研究の目的、調査方法を述べ、本研究で用いる用語の定義と論文の構成を説明した。文部科学省により施行された留学生30万人計画を引き金とし、日本国内におけるグローバル人材の確保の流れが進んでいる状況を述べた。また、日本語学校と高等教育機関での学びについて触れ、留学生が日常的に従事するアルバイトについても述べた。そして、留学生が抱えると指摘されている困難、問題を先行研究から説明し、留学生によるインフォーマル学習が奨励されている一方で、インフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響が明確になっていないことを指摘した。それを踏まえて本研究の目的を説明し、調査方法とそれぞれの実施目的を述べた。次に、本研究で用いる3つの用語について先行研究を用いながら定義をし、用語が指し示す範囲を定め、論文の構成について述べた。

第2章では、先行研究調査の結果と筆者が携わっていた留学生支援活動について記述し、これらから得られた知見をまとめた。留学生の学習に焦点を当てた研究をまとめるとともに、先行研究として、キャンパス内外におけるフォーマル学習に焦点を当てたものが多いことを指摘した。また、留学生のインフォーマル学習に焦点を当てた先行研究を調査し、インフォーマル学習がフォーマル学習に及ぼす影響についてはあまり論じられていないことを指摘した。加えて、筆者が学部生時代に日本福祉大学東海キャンパス内で実施した留学生支援活動について振り返り、留学生の学習には他者との関わりが重要であるという仮説を得た。

第3章では、留学生によるインフォーマル学習の分類がフォーマル学習に及ぼす影響の考察のもととなるデータ取得のために実施した、アンケート調査とインタビュー調査の実施内容と結果を示した。最初に調査に協力した留学生の回答からインフォーマル学習経験の有無を判断するために、3つの分類を作成した。次に、アンケート調査の実施期間、目的、実施方法について述べ、そして、先行研究を踏まえて作成したアンケート調査の質問項目を示した。さらに、アンケート調査の結果として、調査に協力した39人の留学生の内36人にアルバイトへの従事経験があり、インフォーマル学習経験が特定された。具体的には、アルバイト、ボランティア、地域交流などがインフォーマル学習の例として抽出された。さらに、インフォーマル学習経験を持つ留学生36人の内29人がフォーマル学習への好影響を回答し、留学生のインフォーマル学習はフォーマル学習に好影響を与える可能性が大きいという傾向を示した。次に、インタビュー調査の目的および実施結果を示した。インタビュー調査では、アンケート調査でインフォーマル学習未経験の留学生3人を基準とし、イン

フォーマル学習がフォーマル学習に及ぼす好影響を述べた留学生と悪影響を述べた留学生それぞれ4人を無作為に抽出し、計11人にインタビューを行った。その結果、フォーマル学習への好影響を述べた留学生らはアルバイト以外でのインフォーマル学習を半年以上継続している傾向があること、日本人との関わり方についての回答が多く見られた。

第4章では、第2章と第3章から、インフォーマル学習がフォーマル学習に及ぼす影響に関係すると思われる日本人との関わり、協働、学習継続期間を念頭に、インフォーマル学習の3つの事例に着目し、観察、あるいは、当人や関係者へのインタビューにより、インフォーマル学習の実態把握を試みた。最初に、本研究でインフォーマル学習の実態調査を実施する目的を述べ、モンゴル出身の留学生とスリランカの留学生が各々実施した高齢者との異文化交流、インドネシア出身の留学生が参加した東海市地域大円卓会議、ベトナム出身の留学生が小学校で実施している国際交流の実例に関して、筆者による学習活動観察と関係者へのインタビューから調査結果を述べた。筆者が活動を観察したスリランカ出身の留学生が実施した高齢者との異文化交流では、留学生と高齢者が協働し交流の充実を観察し、A氏によるインタビューで筆者の所感とズレがないかを確認し、スリランカ出身の留学生へのインタビューでは参加したことに対する自己評価を述べてもらった。東海市地域大円卓会議に参加したインドネシア出身の留学生と、小学校で国際交流を実施したベトナム出身の留学生に対してもインタビューを実施し、自身の学習意欲への好影響と、フォーマル学習への好影響を述べてもらった。実態調査の結果から、インフォーマル学習における日本人との協働の有無についての回答が多く見られた。

第5章では、先行研究調査、アンケート調査、インタビュー調査、インフォーマル学習の実態調査結果を踏まえ、3つの観点から考察を行った。最初に、アンケート調査とインタビュー調査で示唆された留学生によるインフォーマル学習における日本人との関わりという観点から結果を考察し、留学生が日本人と関わる際の積極性が重要な要素となりうることを論じた。次に、関係者へのインタビュー調査から示唆された留学生によるインフォーマル学習における日本人との協働という観点から結果を考察し、日本人との協働の有無がフォーマル学習への影響する可能性を指摘した。最後に、アンケート調査とインタビュー調査から示唆されたインフォーマル学習の実施期間を考察し、継続性が留学生のフォーマル学習への影響を左右する可能性があることを述べた。

第6章では本研究の結論と今後の課題を述べた。結論として、留学生によるインフォーマル学習が留学生のフォーマル学習に及ぼす影響を左右する3つの要素として、「日本人と関わる際の積極性」、「日本人との協働性」、「インフォーマル学習の継続性」が挙げられることを述べ、これら3つの要素を含んだ留学生によるインフォーマル学習が、フォーマル学習へ好影響を及ぼすインフォーマル学習であることを論じた。そして、本研究の課題として、調査範囲としたインフォーマル学習環境と留学生の範囲についての課題と、オンライン学習環境を含み研究を進める可能性を踏まえた本研究の展望を述べた。

本研究の独自性は、日本国内で促進されている外国人留学生によるインフォーマル学習

を総合的に捉え分類し、外国人留学生によるインフォーマル学習が彼らの正規学習に及ぼす影響の種類を分析したという点である。これまで外国人留学生によるインフォーマル学習はいわゆる「いいこと」として促進されていたが、彼らの正規学習に及ぼす影響は具体的には明示されてこなかったが、本研究はその点に焦点を当てて進めたものであるため、その点が本研究の独自性であると筆者は考える。